

奈良県指定文化財調査票

調査日	2021 年	1 月	7 日	記入者	橋詰 輝己
調査者名	石井	北村	中西	橋詰	

文化財名	ムネサカ古墳(第一号墳)				
種類	<input checked="" type="checkbox"/> 史跡	<input type="checkbox"/> 名勝	<input type="checkbox"/> 天然記念物	<input type="checkbox"/> 有形民俗文化財	<input type="checkbox"/> その他()
指定年月日	1958年(昭和33)3月20日				
所在地	桜井市栗原417番地				
所有者 管理者	個人				
員数					
時代区分	7世紀前葉から中葉頃(県教育委員会の説明板)				
樹木の場合	(樹木名)			(樹齢)	
案内板の状況	有り(県道166号線沿い)				
公開	自由(運輸会社の敷地を通るので見学前に運輸会社で了解を得る必要がある)				
保存状態	<input type="checkbox"/> 非常に良い	<input type="checkbox"/> 良い	<input checked="" type="checkbox"/> 普通	<input type="checkbox"/> 悪い	<input type="checkbox"/> 非常に悪い
	補足(山林の中にあり笹竹が生い茂り見つけるのが苦勞する)				
当面の課題	運輸会社の敷地を通るため、会社の了解を得て入山する。笹竹が多く茂り古墳までたどり着くのが難しいので、見やすい場所に案内板の設置を望む。				
今後の課題	木々が大きくなり山林の手入れもなく放置すれば、薄暗くなりさらに山崩れなどにより古墳自体の存在も見つけることもできない状態になるのではないかと思われる。きちんとした整備を行い文化財の保存を保ってほしいものである。				
その他 (由緒など)	「石室は明日香村の岩屋山古墳と同じ規模でつくられ。7世紀中頃の飛鳥政権をささえた貴族の墳墓の一つと考えられている。古墳自体は栗原谷(おうばらたに)の北斜面を走る直径45メートル、高さ8メートルの円墳で横穴式石室が南側に開口。石室は全長16.6メートル、玄室の規模は長さ4.6メートル、幅2.7メートルで石材の間には漆喰が塗られた跡が残っている。(桜井市ホームページより)」				
コメント	この古墳群は4基の古墳があり、ムネサカ古墳(第1号墳)の近くには第2号墳もあるようだが見つけることができなかった。個人の山林なので案内板の設置も難しい問題はあると思われるが、県指定文化財なので保存を目的とした対策をしてほしい。1号墳は素晴らしい古墳でいまだに石室には漆喰が残り、石室築造の名残りを感じさせ、余韻にひたることができた。				

奈良県指定文化財調査票(写真)

調査日	2021 年	1 月	7 日	記入者	橋詰 輝己
調査者名	石井	北村	中西	橋詰	

文化財名	ムネサカ古墳(第一号墳)
------	--------------

道沿いに立つ説明板・入山には運送会社の許可を得	笹竹に覆われた山道を行く・手作りの案内板
-------------------------	----------------------



山林の中にある古墳の入口(南側を向く)

石室の中には敷石がわずかに残る



天井と側壁石の隙間には漆喰が残る

巨大な石室には花崗岩の切り石も見られた

